TUFS Japan Studies

2018年度連続講演会　第五回

国際日本学がめざすもの：その多面性と可能性

三島由紀夫

「三島由紀夫作品における ユートピアと暗所という快楽」

スティーブン・ドッド氏（ロンドン大学 SOAS ／本学 CAAS ユニット）

フランスの哲学者ミシェル・フーコーは「同空間」に多様な意味が含まれていることを指摘し「ヘテロトピア」という概念を提示した。三島由紀夫の作品「命売ります」においても「同空間」が描かれる一方、作品にあらわれる「変態」や SM 的な人間の多様な関係性を分析し、三島がこのような「同空間」を「暗所の快楽」として描いていることを明瞭にし、それによって戦後の消費社会の限界や空想的な幻想を批判した三島の立場が明確になると考える。

世界文学としての三島由紀夫の創作

「三島由紀夫の〈男性同盟〉 ―映画・マンガ・ドイツ文学―」

佐伯順子氏（同志社大学）

三島由紀夫の作品は、中世の稚児物語、江戸の浮世草子、ドイツ文学と、時代と地域をこえた文学的イマジネーションの結節点に位置し、それをつなぐ要素として男性のホモ・ソーシャルな社会を基盤とした美意識がある。映画と文学、「古典」と近代、ドイツ文学と日本の女性作者による少年愛漫画との比較も含め、三島の問題提起が女性嫌悪を伴いつつも、LGBT の文化的「生産性」という極めて現代的なメッセージを残したことを述べる。

2019年　1月17日（木）

会場：東京外国語大学
研究講義棟 101 教室
時間：17：45 ～ 19：15
一般公開／入場無料／予約不要

© 萩尾望都『トーマの心臓』

主催：東京外国語大学大学院国際日本学研究院
問合せ：国際化拠点室　042-330-5826/5829　caas_admin@tufs.ac.jp